

こだま新聞

第148号
平成20年2月

8020達成への道

以前書いたことがありますが、私の知っている限り、八郎潟町で8020に限りなく近い方は1人だけでした。様々な事情があると思いますが、真剣に取り組まなければならぬと感じております。

さて、ちょっと前までは年齢、加齢という年を重ねる文字にもあるように年とともに歯が弱くなる、失われると信じられてきましたが、現在は年齢と歯を失

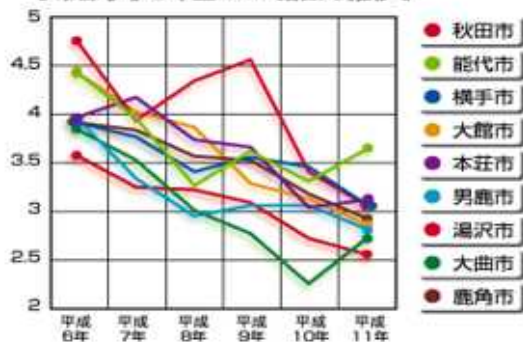
うことは別の問題として捉えられています。

まず、歯を失う原因を考えて見ましょう。20歳前後までは虫歯が原因で歯を失う方がトップを占めます。ところが30歳過ぎあたりから歯周病で歯を失う人と肩を並べ、40歳を過ぎるとほとんどの人は歯周病が原因で歯を失う人になります。

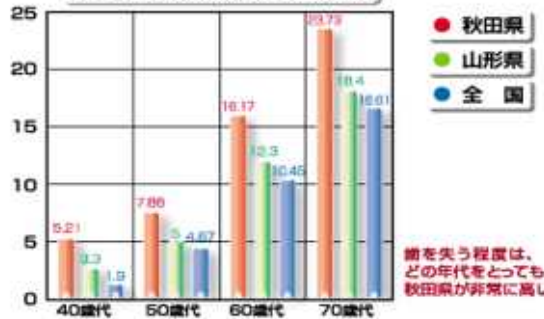
1. 虫歯の現状

歯磨剤にフッ素を添加したものが主流となり、八郎潟町でも幼稚園でフッ素洗口をすること

【市部小学6年生DMF指数の推移】



40~70歳年代別歯の喪失状況



歯を失う程度は、どの年代をとっても秋田県が非常に高い！

虫歯は減ってきたが(上図)8020は遠い

が始められて、小学生の低学年までは虫歯だらけという学童を見かけることが少なくなりまし

た。まだ一部にはそういう子供さんもいることはいますが。最近では虫歯だらけの子供は家庭内暴力(DV)予備軍として報告したほうが良い親としての責任を放棄しているという理由で

と言う先生もいます。様々な健康に対する知識はや健康を考えた食生活の改善も効果をあげているようです。

2. 歯周病の現状

残念ながら秋田県は無法地帯という状況です。私の診療所でも、歯を抜かなければならない原因の多くは歯周病の進行した歯です。虫歯の治療はするのですが、歯周病の治療に積極的に来られる患者さんはまだ少数です。虫歯と違い、悪化しても自覚症状が少ないこと、診療所と本人の協力が一番大事でそれを実行に移すことがなかなかできないということが病気の改善を妨げているようです。

また、虫歯は正しく治療されていれば再発することはほとんどありませんが、歯周病は一度発症すると何回でも再発しやすくなるので、治療すること予

防することを同時に行わないと改善しません。

治療が必要かどうかという判断は本人が気をつけてもほとんど分かりませんし、歯科医でも見逃すことが多いという現実があります。そして誰の目にも明らかに悪化したときには手遅れの状態になっていることが多いのです。

ではどのように対処すればよいのかと言うと、定期的に歯科健診を受けること、適切な予防法を指導してもらうこと、そして自分では困難な予防処置を健診のときに処置してもらうことが大切になります。

皆様も美味しいものを美味しく食べられるよう一緒に努力してみませんか。

石川寛監督 講演会



石川監督(右)と懇談するスタッフ

八郎潟町が2007年度のCM最優秀賞をいただいてから様々な変化が生じています。町民の顔がにこやかになりました。暗い話題の多い八郎潟町で明るい話

ができるようになったからでしょうか。制作したスタッフもサークルのような連帯意識ができ、次の制作に意欲的になりました。

1月26日にCM制作の専門家、石川寛氏を招き勉強会をしました。

「本気でないと、本物でないと人の心に響かない」という言葉が印象的でした。石川氏は秋田市出身で「資生堂マシエリ」や「GOA」など印象的なCMを制作し、2005年「ニッポントリオル映画祭」好きだ」で最優秀監督賞を受賞しました。

今月の行事

2月の行事

- 2日 大潟村国際料理交流会
- 7日 CM大賞東北大会 休診
- 9日 湖東3町商工会賀詞交歓
- 10日 文化芸術による創造のまちづくり 総括と発表会
- 15日 潟上市南秋学校保健会
- 17日 福祿寿蔵開き
- 23日 CM東北大会 放送
- 29日 秋田朝日放送午後3時 A-LTと語ろう